



第30回

# あいち国際女性映画祭 2025

2025年7月10日(木)に愛知県三の丸庁舎2Fアイリスルームにて「第30回あいち国際女性映画祭2025」の記者説明会が執り行われた。

最初に主催である(公財)あいち男女共同参画財団の武田晃理事長より『あいち国際女性映画祭』が30回目を迎えたこと、また長きにわたって映画祭を開催できたことへの感謝の言葉が述べられた。次に川義満プロデューサーからは映画祭の概要の説明があった。木全純治映画祭ディレクター(シネマスコーレ代表取締役)は上映作品の目玉となるものを紹介。佐藤久美イベントディレクターは国際交流企画と女性の活躍シンポジウム開催についてそれぞれ語り、30回を迎えた映画祭への更なる情熱が伝わってきた。

## 「あいち国際女性映画祭」が女性監督を後押しするための出発点に。

### あいち国際映画祭とは

世界各国・地域の女性監督による作品、女性に着目した作品を集めた、国内唯一の国際女性映画祭であり、映画という親しみやすい素材を通して、女性の活躍や男女共同参画はもとより、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(※注)の理解を深めてもらうことを目的に、映画の上映や女性監督のトークイベント、映画と連動したシンポジウムなどを開催。

※注:それぞれがいきいきと働き、成果を出し続けるための考え方(ダイバーシティ:多様性、エクイティ:公平/公正性、インクルージョン:包摂性)

### 映画祭の概要

#### 【日程】

2025年9月11日(木)から9月15日(月・祝)まで5日間

#### 【会場】

- ①愛知県女性総合センター(ウィルあいち)  
名古屋市東区上堅杉1
- ②ミッドランドスクエア シネマ  
名古屋市中村区名駅4丁目7-1 ミッドランドスクエア 5階

#### 【上映作品】

世界初公開2作品、日本初公開5作品、愛知初公開7作品を含む招待作品24本、フィルム・コンペティション作品18作品を含めた全42作品を上映。

#### 【フィルム・コンペティション】

国内外の女性監督が制作した30分以内の短編作品、応募総数653作品よりノミネートされた「ドキュメンタリー部門(4作品)」、「アニメーション部門(4作品)」、「ドラマ部門(7作品)」を9月14日(日)にウィルあいち大会議室にて上映。全ての作品終了後に各部門ごとのグランプリと観客投票による「観客賞」の授賞式も開催。審査委員長には俳優で映画監督の奥田瑛二氏が就任。

#### 【映画祭アンバサダー】

今年度は映画監督の三島有紀子さんを映画祭の盛り上げ役としてアンバサダーに委嘱。

#### 【トークイベント】

招待作品などの上映後に監督や出演者を招きトークイベントを開催予定。



木全映画祭ディレクター



佐藤イベントディレクター



あいち国際女性映画祭2025サイト

### 国内外のゲストトーク主な出演者のみなさん



アンバサダー  
三島有紀子監督  
『緋い裁つ人』



葉葉葉  
金子文子  
『何が私をこうさせたか』



©Cré Company  
キム・ヒャンギ  
『済州島 四・三事件 ハラン』



藤田朋子  
『わたしの顔はいつもうるさい』



©Daisuke Miura (go relax E.more)  
奥田瑛二  
『長い散歩』



安藤和津  
『長い散歩』

左記の方々の他に、フランス映画『ウォーター・サーフィス』出演のカザン・ケサルさんなどが登壇予定。また特別上映作品『繕い裁つ人』出演の中谷美紀さんのビデオメッセージが予定されている。

### 30回記念特別企画

#### ①海外国際女性映画祭との連携

9月13日(木)にフランスのクレティユ国際女性映画祭で上映された『ウォーター・サーフィス』(※ウィルホール)と韓国のソウル国際女性映画祭で上映された『強くなるとき』(※ウィルホール)を日本初公開。

上映後、クレティユ国際女性映画祭ディレクターのジャッキー・ビューエさん、ソウル国際女性映画祭執行委員長のファン・ヘリムさんとあいち国際女性映画祭アンバサダーの三島有紀子監督、浜野佐知監督とで『国際シンポジウム『わたしたちの今』』と題して女性監督の歩みや女性映画祭がつなぐ未来について意見を交わす。進行は木全純治映画祭ディレクターが担当。